



2019 年12月9日

沖縄県 教育委員会教育長

平敷 昭人 様

長島の洞窟について  
沖縄県による天然記念物指定を求める要望書

公益財団法人 日本自然保護協会  
理事長 亀山 章

私たちは日本の生物多様性豊かな自然環境の保全に長期にわたり取り組んできました。このたび、米国 NGO ミッションブルーにより辺野古・大浦湾一帯がその生物や地形の多様性が認められ、ホープスポット（Hope Spot：希望の海）に認定されました。対象の範囲は、辺野古・大浦湾を中心にした天仁屋から松田までの 44.5 平方キロメートルの海域です。そこでこの機会に、この海域にある貴重な長島の洞窟について天然記念物の指定を要望いたします。

名護市辺野古崎沖に位置する長島の洞窟の存在は、地元の人々には知られたことでしたが、その貴重さはよく知られていませんでした。その価値が見直されるきっかけは2014年のことで、藤田喜久氏（沖縄県立芸術大学）がその洞窟内で、サンゴ礁が付着した鍾乳石があることを確認しました。日本自然保護協会がその写真を鍾乳洞などのカルスト地形の専門家である浦田健作氏（九州大学／日本洞窟学会元会長）に提供したところ、「このように石筍にサンゴ礁が付着して成長した鍾乳石は珍しく、日本での報告例はない」ことと、より詳細な調査の必要性が指摘されました。

長島は現在、沖縄防衛局の管理下にあるためその後しばらくは上陸もできませんでしたが、2018 年 8 月 31 日の公有水面埋立承認撤回に伴う工事の停止を受け、日本自然保護協会は辺野古海域において複数分野の緊急調査を実施しました。長島の洞窟については、9 月の 2 日間の調査で、サンゴ礁地理学・地形学を専門とする中井達郎氏（国士舘大学）に洞窟内を観察して地形や堆積物の状況を記録していただき、前出の藤田喜久氏（沖縄県立芸術大学）には、同島の甲殻類相調査の際に、洞窟の簡易な測量を行い、その平面的形状と断面的形状の概要を明らかにしていただきました（中井・藤田、2018）。さらに、同年10月 27 日と 29 日には、前述のカルスト地形の専門家である浦田健作氏（九州大学／日本洞窟学会元会長）にこの洞窟の正確な測量などの調査をしていただきました。

これらの調査から、この洞窟は、国または県の天然記念物に指定するに値する高い学術的価値

があることが推察できました。洞窟の規模は小さいものの多様な鍾乳石が見られること、人の立ち入りなどでそれが破損されていない状態にあることは、洞窟が多数ある沖縄県の中でもきわめて珍しい状況であること、サンゴ礁が付着して成長している石筍は現在も形成中の新しいものであること、鍾乳洞内に鍾乳石に覆われたビーチロックやサンゴ礁などが存在し、海からの影響も受けている学術的に珍しい状態であること等がわかりました。鍾乳石の年代測定も行っています。これらのことは、辺野古周辺の地域の数万年から十数万年にわたる海面変動に関連した自然史を解明できる可能性につながります

長島は米軍普天間飛行場代替施設建設事業予定地の近くに位置しているため、工事の影響や、潮流の変化による影響を受ける可能性があり、また地球規模で起こっている気候変動による海面変動の影響も考えられます。

本年10月29日に沖縄県および沖縄県教育委員会文化財担当者と意見交換をさせていただいた際に、沖縄県は天然記念物指定の条件として人間が長く利用し親しんでいることを重視していると伺いましたが、文部科学省の昭和二十六年文化財保護委員会告示第二号（国宝及び重要文化財指定基準並びに特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準）にありますように、天然記念物は「学術上貴重で、わが国の自然を記念するもの」となっています。人間が長く利用し親しんでいる、というような記述はありません。あくまでも、学術上貴重であるものは対象とすべきであると考えます。沖縄県名護市の嘉陽層の褶曲や奈良県の春日山原始林（特別天然記念物）などのように人の利用とは直接の関わりが薄いものの、学術上大切なものであるという判断のもとに指定されたものが大部分です。

洞窟をはじめとする辺野古・大浦湾の自然は沖縄県の大切な財産です。沖縄県がこれらの洞窟を天然記念物に指定して保護していくことを強く要望いたします

なお天然記念物に指定した後に、保存活用計画を策定する際には、洞窟の測定の過程で確認された最奥部についての詳細測量、洞窟に流れ込んでいる地下水の化学分析、鍾乳石をつくる地下水をもたらしている島の陸上部の地質や 植生の調査の実施が望まれます。また一般にこのような洞窟には光が乏しいことから、真洞穴性や好洞穴性生物などの特殊な環境に適応した生物が生息していることが知られています。長島や平島は他所から地理的に隔離されているため、洞窟や島全体に固有種なども含む特異な生物群集が存在している可能性が考えられ、詳細な生物調査も必要です。

#### 参考資料：

日本自然保護協会（2014年）記者会見資料。沖縄・辺野古／ジュゴンの新たな食痕、わずか2ヶ月で110本以上の記録、日本初のサンゴ礁付着成長の鍾乳石が発見されました！

[http://www.nacsj.or.jp/archive/files/katsudo/henoko/pdf/20140709henokokaikensiryu\\_0715kaitei.pdf](http://www.nacsj.or.jp/archive/files/katsudo/henoko/pdf/20140709henokokaikensiryu_0715kaitei.pdf)

琉球朝日放送（QAB）2014年7月15日放送「長島で貴重な鍾乳石発見！」

<http://www.qab.co.jp/news/2014071556056.html>

日本自然保護協会（2018年）「長島の洞窟の現地調査を求める要望書」

<https://www.nacsj.or.jp/archive/2018/09/8831/>

中井達郎、藤田喜久（2018）長島洞窟群の緊急調査結果とその学術的重要性について

[https://www.nacsj.or.jp/archive/wp-content/uploads/2018/09/20180919\\_nagashimacave\\_houkokusyo.pdf](https://www.nacsj.or.jp/archive/wp-content/uploads/2018/09/20180919_nagashimacave_houkokusyo.pdf)

文部科学省ウェブサイト。昭和二十六年文化財保護委員会告示第二号（国宝及び重要文化財指定基準並びに特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/k19510510001/k19510510001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k19510510001/k19510510001.html)